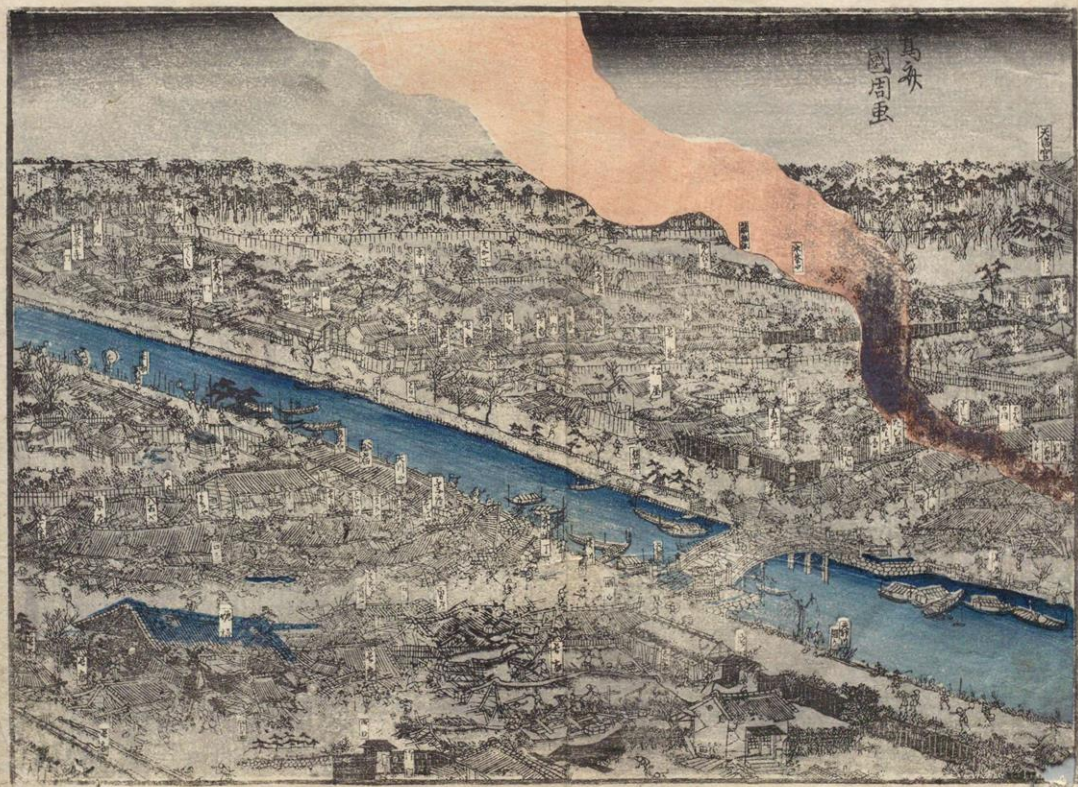


古文書で知る地震 洪水 噴火 (全二回)

講師 神奈川県立歴史博物館 学芸員 寺西明子さん

第一回 10/21 「幕府の対応と現状把握～富士山噴火と砂降りの村々～」

第二回 10/28 「情報共有と相互協力～江戸地震、多摩川洪水と人々～」



歌川国芳『安政見聞誌』 (国立公文書館所蔵)

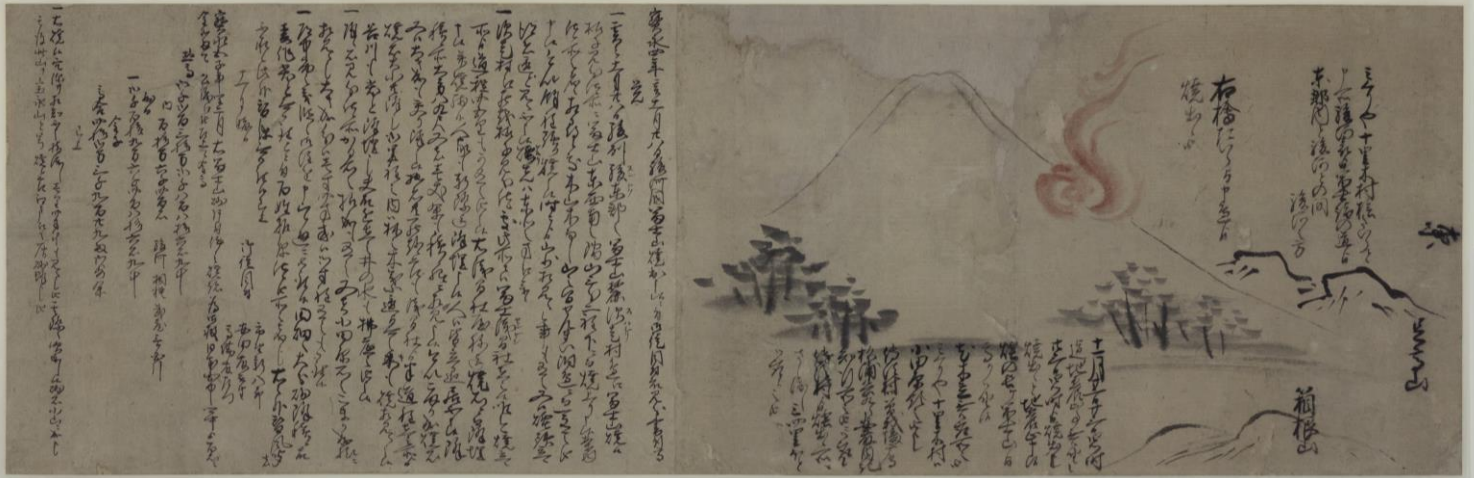
日時：10月21日（月）、10月28日（月） 10時30分～12時30分
会場：大和市文化創造拠点シリウス 6階 生涯学習センター 601講習室
定員：40名（先着）
対象：大和市内在住・在勤の方優先
参加費：各回1,000円
申込：9月21日（土）10時から受付開始
お電話または6階生涯学習センター窓口へ
市外の方はお席に空きがある場合、9/27（金）10時から
お申込みいただけます。
右のQR、お電話または6階生涯学習センター窓口へ



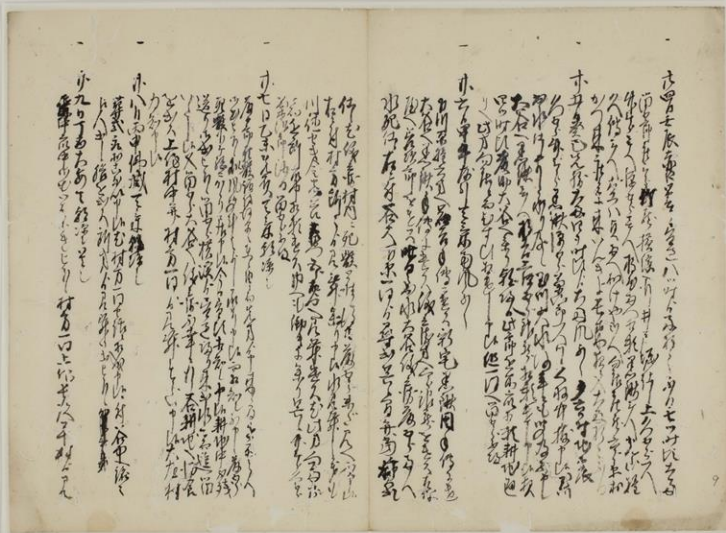
お申込・お問合せ 046-261-0491

日本列島に住む人々は、昔から豊かな自然の恩恵を受ける一方で、地震、洪水、火山の噴火といった自然災害と戦ってきました。災害によって被害を受けても助けあって立ち上がり自然と共存してきた過去は、私たちの未来にむけても様々なことを教えてくれるのではないのでしょうか。

本講座では、神奈川県立歴史博物館が所蔵する資料を中心に、関連する江戸時代の古文書資料から当時の様子を探ります。第1回は、宝永4（1707）年に発生した富士大噴火を題材に、幕府の対応や村々の被害の状況を読み解きます。第2回は、安政2年（1855）年に関東平野東部を中心として大きな被害を残した安政地震や、安政6（1859）年の大風雨が巻き起こした多摩川洪水について江戸近郊の人々が残した日記等の記録を中心に、災害を人々がどのように捉え、どのように立ち向かったのかを紹介します。



宝永4年「富士山焼見分絵図および御徒目付衆見分書上写」（神奈川県立歴史博物館所蔵）



安政6年6月25日「鈴木藤助日記式巻」
（鈴木家文書 神奈川県立歴史博物館所蔵）



宝永4年「矢倉沢村砂御見分帳」
（田代家文書 神奈川県立歴史博物館所蔵）



アクセス
小田急江ノ島線、相鉄本線 大和駅から徒歩3分

- ※ 天候や交通機関の運行状況及びその他不可抗力により開催が中止となる場合がございます。
- ※ 駐車場の数に限りがありますので公共の交通機関でお越しください。